八話

むがしっこあったそなア。

むがしだば、あばどでで って、まんちおどさんにおがさんでえべしゃ。

あばどてで、あるどごろに、そのあばが病気して｜病気さねに子供ふとりあるた。男の子。こんだ病気なってあばが死にました。死んだどごで、こんだあどに来るおがさん、後妻だな。あどのあばもらいましたよ。そしてあどがら来たあばが、その子供いじめで、いじめで、毎日その子供いじめるんだよ。いじめで、いじめで、どうしてこの子供殺したらえど思って毎日そのあどのあばが毎日考えでるんだよ。

そして、こんだア、なんてしぺがな、まんちこう医者みでたのがまわって来ただよな。おれの病気なにもえぐねぐねし、おれこの子供憎らしして、憎らししてなにもかもならねして、どうがこうがして、この子供殺すようにしてけれて、そのまわって来た人さ金をたくさんけで約束したンでね。

こんだあどがら来たあばも病気にかかったわけだ、ててがよ、よっぽどまんち頭のええでだわけだよな。そしてこんだそのて

でが何したらえべが、どしたらなおすにえべがってしたら、辰の年に生まれだ、名前は辰之助、その人の肝をとってけば、この病気なおるって、そしてけれ、そういうふうに頼んだわげだ。そしてこんだ、まだてでが聞いたわけだ。どういうわけだべな、どしたらえがな、なにくすりっこ飲ませだらおれのあばえぐなべが。そういうふうにしたために、辰の年の辰の日に生まれだ、名前は辰之助　の肝とってけばなおるってしたために、どごがに辰の年の辰の日に生まれた辰之助とあるもんだが、探したってねぇわげだ。しんぶん見だばあるわげだ。自分の子供だわげだ。自分の子供、あどがら来たあばがいだわしして、自分の子供殺して肝とってかへるじ。

そして、そごの家でまんち、この大き百姓の家で若勢二人も三人も使ってだ家だったしな。そして、きょう「この辰之助を出さちでいって殺して、肝とってきてけれ、へばこのあばは病気なおるンて。」こんだ、その先に死んだあばが辰之助が生まれだどぎ大きくなって、あんだがだなるまで着る着物、服もちゃんとこさえで死んだわげだ。先のあばがよ、そしてこんだ、辰之助をきょう殺すにえがねまねだヨ。若勢どさ行李ひとつしょわせで、大きぐなるまでこへってもらた着物行李さ入れで、行李しょわせて辰之助おぶって山さ行ったわけだ。一人も二人もして。こんだ、行く途中に山猫がいたわけだよ。よしよし山猫とって殺してあどべり（後入り）あばさかしぇるべし。辰之助だばとってもかわいそうで殺されね。辰之助は山さ、柴で小屋かげで、辰之助殺したふ

りして、山さ置いで行李コど置いでくる途中に猫をとっちめで殺したわけだ。その若勢ど、三人も四たりもして猫殺して肝とったわけだ。ぶっつりな。いま辰之助僧いためにあばが死んところだんだよ。いま、むごうがら、えま来べが、えま来べがては、けてしたば、むしゃむしゃど喰ったじ。僧いためにその肝喰ったば、ちゃんとえぐなったじ。ここはこれでおしまいだんだよ。

こんだ辰之助の方なんだよ。辰之助、こんだ晩げになった。置いでくるどき、「辰之助、辰之助おめのほんとの生まいだあば来るんて、ンがば迎げいに来るんてこんばんここにいれ」そしたば、子供だものよ、「ウン」てだわけだ。したども何もこね、くれぐなったばて、してじっとくれぐなったば、ノチノチノチて何が来た。そしたば大きな坊主来た。焼ぎ飯二つ持って、「これ今晩一つ喰って朝まに一つけ」てしゃべってすぐまだ行ったわけだ。してまんち、泣ぎ泣ぎ喰った。まだ朝まに喰った。して、こんだ昼まになってそごにえだば、晩げになって、まだ来たわけだ。「今晩一つ喰って、朝まに一つ喰ったらお前はじっとじっと行げば、けんどコ二本あるんて、右のけんどコ、右のけんどコと思って行げせばおめ、立身すんて」て教えだば、こんだ朝まになって行李一つしょって、右の方、右の方ど思って行ったば、こんだ家一つあるわけだ。家ってきれっからだ（ボロの）家コだな。

こんだ、そこさ行ったば爺ちゃん一人いたわけだ。「今晩泊めてけれ」てしたば「おめば泊めだってかへるものね。米コもねし味噌コもね。泊められね」「ままひとかだぎばがりかねたておれ死

なねンて泊めてけれ」て。今夜一晩泊まった。そしていつかも泊まってられね。「じっちゃ、じっちゃおればどごがの釜の火たきでもしどごねべが、世話してけれ」てこう頼んだば「どごだがさえげば、どごだがの親方で聞いでみる。おれ、あした早くでで、聞いでみるな」って、この爺さまわらじ作って、家で食べでるじさまだよ。して、こんだ親方さ行って願ったば「どういう子だ、ついで来い」したばまんち、きれだわらしこだわけだよ。してこんだ、「おれの釜の火たきだ、おれ家にえでけれ」したば「いるんてまんちおいでけれ」して、おいでけれど「おれ家さ一生上がらね。庭の隅さ家コ建ててけれ、おれのはるだけの家コ建ててけれ」て。「建ててもらっても、外さあかしっコついでも中さ、めねように、中さぎかしっコついでも外さめねようにしてけれ」。したばちゃんとそのようにそごの家で造ってけで、こんだちゃんと小屋コにいるわけだよ。して朝まに起れば釜の火たぎだためにつら（顔）コさ釜のすすコベタベタときれいにやって、そして庭コ掃いだり、釜の火コたいだりでそコの家で辰之助どこば、何も知らねために、「くろぼ」と名めこつけで、「くろぼ」てば「アー」、今だば「ハイ」ってしども「アー」てさか（呼）ぶべ。何でも言い付げだ。その稼しぇぐんだよ。そしてこんだあるどぎそこの親方に、一番の姉は「その」じ名めで中は「なか」で、しめぇは「すえ」って三人娘があったど。そこの家によ。してまんち、そこに何年もえだべしぇな。こんだ「すえ」がおしっこに起ぎだわげだ。おしっこしにばんげな。一番しめっこの女児コ。

したば、くろぼの小屋コさあがしっコついでらわけだ。なにしてあがしっコちいでらべなと思って、したて俺ば忍びられればえぐねど思って、こさ何が置ぐんだよ。こうして足で、こうつまずがせるもの、わじゃに置げば、してこんだ見るべど思っていげば、ガガガーンて、ホレ、音して、へばなも見られねごどだべ。あしたの晩げにはと思って、あしたの晩げに来いば、まだつまずがす。して、まだあしたの晩げ見でけべど思って、あしたの晩げ、まだ三回起ぎでみだどごろで忍んで見だどごろで、「くろぼ」でね、ちゃーんときれいに顔洗って、髪をちゃんと結って、何年もなったもんだために。して、そのじぎ（時）は、おどうさんが、おがさんの死んだじきの日であたべ。「すえ」が見だ晩げは、クダラギの本読んでだわげだ。しゃんとしてな。クダラギの本。こんだ「すえ」がその「くろぼ」好ぎになって好ぎになって、どうもをね。好ぎになってるども、朝まに起ぎれば、どしてくれ（黒）ぐなってるために。ほんとだがじほだがわがねんし）。して、ある時、祭りであったわけだ。そごで、祭りってばたくさん行ぐしべ。こんだそごの家で皆行ったわげだ。こんだそごの親方が「くろぼ、くろぼ、おめも祭り見に行ったらえがべで」「うん」。いづのこめにが着たもんだが、ちゃんとして、どしてこのくれ（位）なるまで着るものこへ（拵）でもらったもの。ちゃんと立派だ着るもの着て、おらおどさんがら聞いだども、「青葉の笛」って聞いだごどあるン」か。「青葉の笛」。して皆、祭りだば、じゃーンと皆め（見）るどごさ上がって「青葉の笛」吹いだわげ。したば、

どして、いい男だしどうもこうもなねべ。どごの人も、あの男はどごの男だべって。したて、「すえ」がちゃ—んと見てるもんだがら、「すえ」と「なか」と「その」とそごさ並んでいて、どごの男だべて「すえ」も「なか」も、せば、「あれだけ、おれのくろぼだもの」こうしたたべ。すえが、ちゃんと見でるもんだたいに。「どごに、おれのくろぼ、ああして釜の火焚ぎで、あの真黒だつらコやて、ああいうもんでね。あれだけ、どごかの男だべ」「ンでね、おれのくろぼだ」こんだ、祭り見ねで三人して喧嘩してるわげだ。で、こんだ喧嘩して、祭り見ねでごしゃげる（腹が立つ）て家さ帰ったわげだ。ちゃんとくろぼが、ちゃんと来ていっちにつらさ墨つけで、ちゃんと庭にいだわげだ。

「ほら見れ」ど「おれのくろぼでね、おれくろぼだっけ、ここにいだもの、ああいういい男だきゃくろぼでね」して、まんちゃんと「すえ」がはアちゃ—んと覚えでらたもの。こだ、そのうちにおれ家で娘三人さ婿とるたてどこから取ったらえがべ、こっからとったらえがべ、姉の「その」と「なか」どこんだ決まった。こんだ「すえ」が病気かかった。恋患いさかかった。なんぼ、どこの人にまんち、ままかへでもらったら、きじぐなべが、水コ飲ませでもらったらきじぐなべがと思って、どごの人頼んできて、そごどして親方だたいに、人頼んできてなんぼ、ままかへでもなも起ぎでもみねんだよ。

したら、みなこんたに頼んだし、おれのくろぼにもやってみてばくろぼどご。くろぼさ水汲んでやってたば、真黒だつらして水汲

いにいったわげだ。くろぼが行ったば、じゃーんと起きで、水もう一杯なんてはア、二杯飲んだわげ。さあ困ったごどした。立派だまんち、かまどのいいどごがらもらうべど思ったきゃ、庭の庭掃ぎ、まんちもらねまね。よそさだばしかだね。したてはアどうもならねど思って、こんだ今日は、こんだ祝儀だわげだ。ンだなんだなんし、今だばなんでもくるども昔は馬車だンしか。そういうので婿が来たわげだ。姉と妹の婿が。婿が来て座っているたて、まだくろぼ庭にいるわげだよ。こんだおどさんが「くろぼ、床屋さいってこい」てしたば「ウン」しけ。して行って来てちゃんとまがなって（仕度して）きてこうびちびちと、姉はどして床の間さ座るべし、びちびちと座ったば、「すえ」の婿が一番いいわげだ。一番立派だわげよ。そして、こんだおどさんもびっくりしたべ、してこんだ姉ばこさ置がねまねども、「姉のそのどながは平婿、すえとくろぼが、ここのかまどつ」て、こだおやじやしゃべたじしゃ。で、そごの財産家さちゃんとくろぼがよ、ちゃんと座てはア、そごで暮らしたわげ。

それでまんち、どっとはらった。